

甲斐市立竜王小学校 学校関係者評価書

令和7年2月14日（金）

甲斐市立竜王小学校 学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

実施日：令和6年2月14日（金）

参加者：学校運営協議会 会長 三澤宏 副会長 篠原美代子

学校運営協議会 委員 神澤由彦 森澤ひとみ

P T A会 長 大木早百合

P T A副会長 杉崎明日香 大江由加里 高野かおる

学 校 側 校長 松井渉 教頭 久保田勲 教務主任 油川真

I 学校側から提案された内容

〈教職員自己評価書について〉

- 1 達成状況について
- 2 改善策について
- 3 まとめ

II 協議された主な内容

1 全体の概要について

（1）教職員自己評価について

- ほとんどの設問で肯定的評価が95%以上であり、教職員自己評価が良好であること。

（2）小学生アンケートについて

- 「学校は楽しいですか」の肯定意見が約85.7%となり、多くの児童が学校生活に満足している状況であること。

（3）保護者アンケートについて

- 「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見が約93%以上であり、好意的な評価であること。

2 学校教育目標・学校経営について

- 学校教育目標をもとに学校教育活動がなされ一定の成果を得ている。PDCAサイクルを活用しながら効果的・効率的な学校経営や教育活動を目指した改善を継続していくこと。
- 多様な子供たちを誰一人取り残すことがないように、教職員間での情報共有を確実に行き、学校体制で取り組んでいくこと。

3 学校運営について

- 教職員への「危機管理マニュアル」の周知，活用していくとともに，常にマニュアルの見直しと充実を図っていくこと。

- 子供主体の学びへの転換を図り、子供たちが楽しいと思える授業を創造するために、組織研究を継続していくこと。

4 学習指導について

- やまなしスタンダードで求められている「めあて」の明確化を意識した授業作りを今後も実践していくこと。
- 「家庭学習の手引き」などを活用し、自主学習の取組など、保護者と連携を図りながら家庭学習への指導の充実を図ること。

5 生徒指導について

- 教職員や保護者等による早期発見と早期対応が何より重要である。日頃からの学級経営の充実を図ったり、児童・保護者とのコミュニケーションを深めたりしていくこと。
- 児童の問題行動については、早期発見に努め、組織的な対応ができるよう、S CやS S W、市の子育て支援課、県の児童相談所と連携しながら、全教職員の共通理解のもと、問題解決にあたっていくこと。

6 地域との連携について

- 地域や外部機関の連携場面を再検討していること。日常では、保護者や地域住民による登下校の見守り等で協力を得ることができたこと。
- 学校からの情報発信として、学校だよりとホームページを連携させ、積極的に活用すること。内容や運用方法について、改良を重ねていくこと。
- 学校運営協議会を設置した初年度である。社会に開かれた教育課程を実現するためにも、委員との連携は不可欠である。P T A主催行事や地域と連携した取組について、これまでの実績を生かしながら継続し、活性化を図ること。

7 学校の特色に関して

- 本校の特色について、学校経営方針の共通理解のもと、継承・改善しながら組織的に取り組んでいくこと。

8 創甲斐教育について

- どの学級、学年においても、指導が一貫して行われるように、「聞き方、話し方スキル」の確認や、「ほめ言葉のシャワー」の取組方法等について、年度当初の早い段階に教職員研修を行っていくこと。

〈学校関係者評価書〉

1 全体評価

- 教職員が一丸となって教育目標の具現化に努めていることがわかった。

2 観点ごとの評価結果

I 学校教育目標・学校経営について

- P D C A サイクルによる教育活動を定着させていきたい。
- 地域社会と支援体制を組みながら協働して、効果的、効率的な教育活動を推進してほしい。

II 学校運営について

- 教職員一人一人が危機管理意識をもって教育活動を行っていくことが大切である。
- これからもベテランと若手の教職員が、互いの良さを生かしながら力を合わせ、日々の教育活動に邁進してほしい。
- 働き方改革を意識して職務にあたってほしい。

III 学習指導について

- 児童とふれあう時間を確保するために、積極的に外部の人材を活用するとよい。

IV 生徒指導について

- 今後も保護者や地域とのコミュニケーションを深め、子供を見守っていく必要がある。

V 地域との連携について

- 可能な限り学校行事への協力を仰ぎ、学校、保護者、地域全体で学校を盛り上げてほしい。

VI 学校の特色について

- 「竜王小学校らしさ」について、教職員で確認し、学校、保護者、地域住民が協働しながら、学校の活性化を図っていかなくてはならない。

VII 創甲斐教育について

- 褒める教育の推進は、人間形成の上でとても大切なので、継続するとよい。

3 今後の課題として確認されたこと

- カリキュラムマネジメントによる確実なP D C Aの実施
- 学校体制で取り組む特別支援教育
- 危機管理マニュアルの的確な運用
- 校内研究の確実なフィードバック
- 学年主任を中心としたやまなしスタンダードにもとづく授業づくり
- 家庭学習と連携した学びの啓発
- 問題行動の早期発見・早期対応のための校務効率化と組織連携
- 学校だよりと学校ホームページのより効果的な活用
- P T A主催行事の取組の継続
- 学校運営協議会を中心とした地域との連携の引継ぎ
- 長所を伸ばし，短所を改善することによる特色化
- 教職員研修による一貫した指導体制の確立

※特記事項

- 特になし

